

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520220

研究課題名（和文）黒川家旧蔵資料を通して見た江戸期知識層の形成と知識流通に関する研究

研究課題名（英文）Research on the formation process of layer of intellectuals and knowledge circulation of Edo period through analyzing of the Kurowaka collection

研究代表者

廣嶋 進（HIROSHIMA SUSUMU）

神奈川大学・経営学部・教授

研究者番号：30208871

研究成果の概要（和文）：

江戸時代の国学者である黒川家に伝領された古典籍を対象とし、その蔵書形成の解明を通して、江戸期における知識人層の形成とその知識の流通経路の一端を明らかにした。具体的には、黒川家の蔵書における公家出自の資料の個別の検討、国学者が説々を書き入れた版本・写本に記された注説の流通過程の検討、江戸時代の制度と法制と蔵書形成の関係の検討を行ない、黒川家旧蔵資料を通して見た新たな江戸期知識人層の提示を試みた。

研究成果の概要（英文）：

We investigated rare books of the Kurowaka collection, and we discussed and studied the formation process of layer of intellectuals and knowledge circulation of Edo period. Concretely, we researched individually on the books from court nobles in the collection of books of the Kurokawa family, and investigated the circulation process of the head note recorded on the books written by Kokugaku scholars, and studied the relation between system of politics in Edo period and the formation process of book collection. We tried to submit new image of intelligentsia in Edo period through the analysis on the formation process of rare book collection of Kurokawa family.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：近世文学

1. 研究開始当初の背景

前近代日本における知的活動の基盤としての書物の流通、書籍の蓄積（蔵書の形成）については、主として近世日本文学研

究の分野においては、近世日本文学の一つの核としての草子類の出版活動に与えた本屋、版元の実態解明や書籍流通を通して見た近世的知の拡散（鈴木俊幸『江戸の読

書熱—自学する読者と書籍流通』平凡社 2007 等), また, 近世蔵書家の資料群の形成過程と近世的知の形成について注目が集まるなど (『創立 100 周年記念特別展 岩瀬文庫の 100 点』(岩瀬文庫 2008) 他の塩村耕氏の業績など), 知識の源泉としての〈書籍〉への関心が高まり, 知の現れとしての〈書籍〉の集積, その体系化や流通といった書籍の流動性と蓄積の検討を通じた, 近世的知のあり方に関心が寄せられるようになってきている。本研究は, 上記の研究動向を踏まえ, また, 具体的地平から江戸の知識層の形成と知識の流通に光を当てようとするものである。

具体的には, ノートルダム清心女子大学, その他に分蔵される, 近世後期の国学者・黒川春村(1799-1866), 真頼(1829-1906), 真道の3代により収集された黒川文庫本の蔵書の形成と所蔵資料の個別の検討(書籍の貸借や書き入れの検討など, なお後述する)を通して, 主として「国学者」として類別されてきた江戸期の知識層の知識基盤の形成とその学業の流通を立体的な把握を試みた。

2. 研究の目的

本研究は, ノートルダム清心女子大学, 実践女子大学, その他に分蔵される, 「黒川文庫」と通称される江戸期の「国学者」の旧蔵資料群を素材として, 主として書物の流通・収集過程の解明と, 書籍に書き入れられた注説の比較検討とその流過程の解明を通して, 江戸期の知識層の一典型としての「国学者」の姿を立体的・多面的に描こうと試みるものである。

下記にも述べるように, 従来, 「国学者」と目されてきた江戸期知識人は, その思想的側面のみが強調される嫌いがあり, その全体像, 例えば修養過程に顕された筆記類や蔵書個々の検討を通してみた人物像の把握や, 更に広く江戸期の知識人としての社会的位置などについては検討が遅れている。

本研究では, 下記の計画により, 江戸期知識層の一つの典型としての「国学者」に関する総合的検討を目指している。黒川文

庫本については, 柴田光彦『黒川文庫目録本文編』(青裳堂 2000), 同『索引編』(青裳堂 2001) があり, 数カ所に散在している黒川家旧蔵資料の全容を窺い知ることが可能となった。柴田も同書に指摘するように, 数代にわたって蓄積された国学者一族の蔵書の全容が知られるものは比較的希であり, 黒川文庫本は, 従来, その特異な思想面にのみ関心が向けられてきた「国学者」の活動の総体を炙り出すためにも十分な資料群と言える。

本研究では, 知識人としての国学者とは何であったのか? という問を設定し, その蔵書形成と学問の実際に関する個別資料の検討の積み重ねの上に, 江戸期知識人の一典型としての黒川家三代の姿を把握するための枠組みと方法の提示を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は, 蔵書の形成過程の探求を通して, 江戸期知識層の典型としての「国学者」の活動の立体的・多面的把握にあり, 旧蔵資料の総合的且つ網羅的調査を第一の目的とはしていない。勿論, 将来的な悉皆調査を視野に入れてはいるが, 主として, ノートルダム清心女子大学に所蔵される歌書類を中心に, 他機関所蔵の資料を参照する形で検討を進める。歌書類は, 国学者の学問の基盤となったものであり, 本研究の成果の上に, 将来的に他分野の成果を蓄積してゆくように構想することは, その合理性から見ても妥当と判断されよう。本研究における具体的検討課題は, 主として下記3点である。

(1) 江戸後期の蔵書形成と書籍流通に関する検討

(2) 江戸期知識階層の知識基盤形成とそのネットワークに関する検討

(3) 江戸期の出版統制と蔵書形成に関する相関的検討

4. 研究成果

本研究を構成する上記3つのテーマのうち, (1)「江戸後期の蔵書形成と書籍流通に関する検討」については, 黒川文庫本『光源氏物語抄』(いわゆる異本『紫明抄』), 『花屋抄』, 『休閑抄』に着目し, 公家に伝来した典籍の国学者への流通経路の問題から発展的に展

開した古典注釈書の流通の問題点を整理した。具体的な成果とその報告としては、正宗敦夫収集善本叢書と題した叢書を企画し、研究機関内に、『正宗敦夫収集善本叢書第1期第1巻 光源氏物語抄』（武蔵野書院 2010）、『同第1期第2巻 花屋抄』（武蔵野書院 2010）、『同第1期第3巻 休聞抄 1』（武蔵野書院 2011）、『同第1期第4巻 休聞抄 2』（武蔵野書院 2011）の4点を刊行した。

(2)「江戸期知識階層の知識基盤形成とそのネットワークに関する検討」については、主として歌書類を中心に、上田秋成（1734-1809）、村田春海（1746-1811）、岸本由豆流（1789-1846）等の注説の書き入れをもつ伝本の調査を継続した。また、国学者の関与した物語注釈書とそれらの書き入れ本についても調査を行い、作品それぞれの個別調査に基づき示されていた従来の理解の修正を試みた。筆跡の同定や記載内容の未見の他本との比較に若干の課題を残したが、これらについては今後も機会を得て継続的に補正を試みたい。また、本研究の調査と分析により典籍類に付された蔵書印の重要性が改めて確認されたが、これについても今後も調査と検討を重ねたい。

(3)「江戸期の出版統制と蔵書形成に関する相関的検討」については、基礎的な調査と資料整備を進め、関連する資料と論考を成文化した。具体的には、江戸書物問屋仲間の構造に関する分析を行い、併せて、上記(1)とも関連する江戸期における基盤資料としての人名録関係の調査整備と報告を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

- ①藤實久美子, 文献史学はなぜ書籍史料と向かい合うようになったのか?, 『人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究』, 査読無, 2010, pp. 3-13
- ②新美哲彦, 花屋玉栄と「ちやあ」—伝秀吉筆『源氏物語のおこり』から—, 平安文学の古注釈と受容 2, 査読無, 2010, pp. 120-142
- ③廣嶋進, 『西鶴諸国ばなし』と説話集の方法, 近世文芸 研究と評論, 査読無, 2010, pp. 41-49
- ④廣嶋進, 『西鶴諸国ばなし』の絵—反復と

独立—, 国文学 解釈と鑑賞 75-8, 査読無, 2010, pp. 20-28

- ⑤廣嶋進, 翻刻史料『連歌初心抄』, 『江戸書物の世界』(笠間書院), 査読無, 2010, pp. 516-562
- ⑥廣嶋進, 西鶴と『伊勢物語』『伊勢物語 享受の展開』(竹林舎), 査読無, 2010, pp. 317-333
- ⑦藤實久美子, 江戸書物問屋仲間の構造と板権の実効性—武鑑株を事例に—, 江戸文学 42, 査読無, 2010, pp. 90-92
- ⑧海野圭介, 正宗敦夫旧蔵升底切本『金葉和歌集』考, 『日本古典文学研究の新展開』(笠間書院), 査読無, 2010, pp. 58-79
- ⑨藤實久美子, 江戸書物問屋の仲間株について—出版界の秩序化—, 『一八世紀日本の文化状況と国際環境』(思文閣出版), 査読無, 2011, pp. 233-251
- ⑩新美哲彦, 別冊『奥入』諸本の整理と特徴, 『源氏物語の展望 10』(三弥井書店) 査読無, 2011, pp. 382-413
- ⑪新美哲彦, 定家『奥入』の諸問題, 『中世の学芸と古典注釈』(竹林舎), 査読無, 2011, pp. 453-474
- ⑫海野圭介, 始発期の三条西家古典学と実隆—『実隆公記』に見える『古今和歌集』の講釈と伝授を中心に—, 『中世の学芸と古典注釈』(竹林舎), 査読無, 2011, pp. 110-129

[学会発表] (計7件)

- ①藤實久美子, メディア世界の秩序化と逸脱(その2 江戸書物問屋仲間の組織・運営), 「18世紀日本の文化状況と国際環境」(国際日本文化研究センター), 2009年6月, 国際日本文化研究センター
- ②藤實久美子, 文献史学はなぜ書籍史料と向かい合うようになったのか?, 人間文化研究資料の多元的複眼的比較研究第1回研究会報告(国文学研究資料館), 2009年8月, 国文学研究資料館
- ③新美哲彦, 『源氏物語』の本文と受容, 第10回紫式部学術賞受賞記念講演(紫式部顕彰会), 2009年5月, 京都商工会議所
- ④新美哲彦, 諸本分類とコンピュータ利用～可能性と課題～, 斯道文庫講演会(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫), 2009年5月, 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
- ⑤海野圭介, 漢訳仏典の受容と和歌,

International Meeting at Faculty of Arts,
Chulalongkorn University, 2009年8月,
Faculty of Arts, Chulalongkorn
University, Thailand

- ⑥新美哲彦,『源氏物語』の絵画化 危機・挑
戦・新パラダイム,第8回ブラジル日本研
究国際学会・第21回全伯日本語・日本文
学・日本文化学会,2010年8月,ブラジ
リア大学(ブラジル)
- ⑦Akihiko Niimi, Paintings of the Tale of
Genji, I Encontro Internacional
Linguagens do Oriente, Sep. 2010,
Universidade de São Paulo (Brazil)

[図書](計21件)

- ①陣野英則・新美哲彦・横溝博,平安文学の
古注釈と受容 第2集,武蔵野書院,2009,
全225p
- ②財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノ
ートルダム清心女子大学編(新美哲彦・海
野圭介他監修),『正宗敦夫収集善本叢書第
1期第1巻 光源氏物語抄』(武蔵野書院),
2010,全1033p
- ③深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第1巻』(柊風舎),2009,全449p
- ④深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第2巻』(柊風舎),2009,全427p
- ⑤深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第3巻』(柊風舎),2009,全449p
- ⑥深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第4巻』(柊風舎),2009,全449p
- ⑦深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第5巻』(柊風舎),2009,全461p
- ⑧深井雅海・藤實久美子編,『近世公家名鑑
編年集成 第6巻』(柊風舎),2009,全497p
- ⑨財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノ
ートルダム清心女子大学編(新美哲彦・海
野圭介他監修),『正宗敦夫収集善本叢書第
1期第2巻 花屋抄』(武蔵野書院),2010,
全507p
- ⑩深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第7巻』(柊風舎),2010,全441p
- ⑪深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第8巻』(柊風舎),2010,全475p
- ⑫深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第9巻』(柊風舎),2010,全438p
- ⑬深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第10巻』(柊風舎),2010,全481p
- ⑭深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編

- 年集成 第11巻』(柊風舎),2010,全487p
- ⑮深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第12巻』(柊風舎),2010,全527p
- ⑯深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第13巻』(柊風舎),2010,全528p
- ⑰深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第14巻』(柊風舎),2010,全482p
- ⑱深井雅海・藤實久美子編,近世公家名鑑編
年集成 第15巻』(柊風舎),2010,全431p
- ⑲谷協理史・廣嶋進,『新視点による西鶴へ
の誘い』(清文堂出版),2011,全292p
- ⑳財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノ
ートルダム清心女子大学編(新美哲彦・海
野圭介他監修),『正宗敦夫収集善本叢書第
1期第3巻 休聞抄1』(武蔵野書院),2011,
全696p
- ㉑財団法人正宗文庫・国文学研究資料館・ノ
ートルダム清心女子大学編(新美哲彦・海
野圭介他監修),『正宗敦夫収集善本叢書第
1期第4巻 休聞抄2』(武蔵野書院),2011,
全712p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣嶋 進 (HIROSHIMA SUSUMU)
神奈川大学・経営学部・教授
研究者番号: 30208871

(2) 研究分担者

藤實 久美子 (FUJIZANE KUMIKO)
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授
研究者番号: 90337907

新美 哲彦 (NIIMI AKIHIKO)
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授
研究者番号: 90390492

海野 圭介 (UNNO KEISUKE)
国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号: 80346155